

聞き書き その9 肥田航空技術中尉 24歳の切腹 2021/8/20

かほく市木津(旧七塚町木津)光源寺の一二三勢気子さんに聞く

戦時中の思い出として一番記憶に残っている事は木津の遠田さん工場に立川陸軍航空工廠が疎開して工場長の肥田中尉 24歳が寺の離れで暮らしておられ敗戦後の昭和20年8月23日に木津の高松に近い松林で切腹されたことです。

介添えに二人の部下を指名し一文字腹(刀を腹に突き刺し右方向に三寸間隔一文字を書くよう引き回す、他に十文字腹、扇子腹)で切腹を遂げた。

介添えの二人は肥田中尉に強く促され太刀をふるって首を切った。

現在では囑託殺人罪で刑務所入りと思われるが二人の介添え役の事は戦後のドサクサのせいか詳しくは判らない。

介添え役は讃岐の方で切腹後、竹内医院(現在閉院)に担ぎ込み検死後に寺に連絡されたが住職の(私の父)は平素大きな声を出さぬ人だったが大音声で「なにいー」と叫んだ事が記憶にある。

昔、武士以外は切腹できなかつたので、土族のいない七塚町では初めての切腹でないかと思われます。

肥田中尉の没後に中央公論社記者の取材をうけて当時の思い出を話したが一冊の本にまとめられ生い立ちや遺族の言葉があり感銘深かつた。

今、手元にこの本が見当たらず残念です。

聞き書き その 10 肥田航空技術中尉 24 歳の切腹 2021/8/30

かほく市木津の鶴飼時子さんに聞く

金沢で飛行機部品製作の工場が昭和 20 年 4 月に木津の遠田工場へ疎開し活動をはじめましたが昭和 20 年 8 月 15 日終戦となり、工場責任者の肥田航空技術中尉が僅か一週間後に若い生命が自刃とゆう言葉にだせない悲哀の中に散ってゆかれました。

誠実で真面目な性格からして敗戦の責任をとるべく何かある予感があり工場に勤務する父達数人は注意していた事は当時小学生の私の心に今も残っております。

私は肥田中尉の軍服姿に数回出あった記憶があり近寄りがたい思いをした事を覚えております。

自刃の場所に木津有志一同で肥田様塚を建立した際にご両親もお見えになり御子息の生命を散らした此の地を心に収めてゆかれました。



